

日本医療マネジメント学会第13回山口県支部学術集会

2014年11月15日（土）山口県総合保健会館において、日本医療マネジメント学会第13回山口県支部学術集会が開催されました。



高橋 幹治 学会長

テーマは「地域におけるリハビリテーション医療の役割」と題し、一般演題（口演11題・ポスター12題）パス展示6題の他、リハビリ機器展示、シンポジウム、特別講演を行いました。

特別講演は日本リハビリテーション病院・施設協会の栗原正紀会長をお招きして、「地域包括ケアを支える多職種チーム医療の展開」という演題で地域医療の実情と課題、チーム医療のあり方、地域包括ケア時代のリハビリテーション、地域リハビリテーションによる地域包括ケアシステムの構築についてご講演をいただきました。



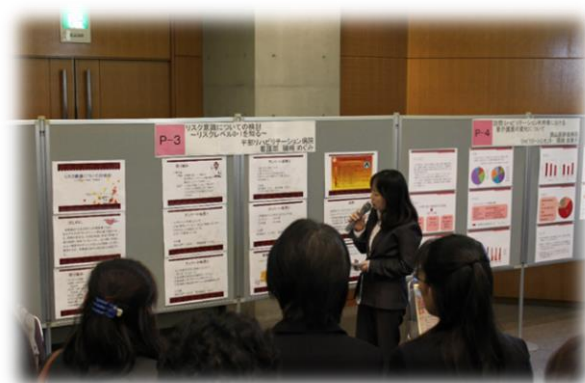
栗原 正紀 先生



シンポジウムでは、「これからの地域医療体制における急性期病院と回復期リハビリ・慢性期（療養型）病院の役割」というテーマで、行政及び山口県央部の各地域で急性期・回復期・慢性期（療養型）を担う7病院から8名のシンポジストの皆様にご発表をいただきました。



半日という限られた日程でしたが、口演、ポスターセッション、パス展示、リハビリ機器展示等それぞれ密度が濃く大変充実した内容となりました。





当日は会員および幹事やシンポジストの先生方を含め 500 名を超える方々のご参加をいただきました。

また、協賛する企業の皆様のご協力で、多くの広告や医療機器の展示についてご提供をいただくことができました。

今回は幹事病院としての開催で、事前準備から当日の運営まで多くの方々にご協力をいただき、大盛況のうちに終了することができました。